

70 NEWS

life with stone

～ 石の温もりを、暮らしの中に ～

みなさま、こんにちは。
2024年も残りわずかとなりましたが、皆さまにとってどのような1年だったでしょうか。今年1年を振り返ると、取り巻く環境の急速な変化がますます顕著だったように感じます。
来年、2025年は「2025年の壁」とも称されるように、さまざまな分野で大きな転換が求められる年となりそうです。DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展も一層加速すると予想される中、私たちが時代の変化に柔軟に対応してまいります。
また、おかげさまで当社は来年、創業70周年を迎えます。この節目の年にあたり、改めて石文化の発展を理念として掲げ、皆さまにお役に立てる情報やサービスをお届けしてまいります。
これからも「70.NEWS」をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今月のスポットライト

「字彫りゴムシート糊痕除去」 のりあと

字彫り作業に欠かせないゴムシートですが、接着を補助するためにゴム糊を使用されることが多いかと思えます。しかし、ブラスト作業後に数日間ゴムシートを貼りっぱなしにしてしまうケースも少なくありません。その場合、ゴム糊が石に糊痕(のりあと)として残ってしまうことがあります。

そこで今回は、ゴムシートを長期間貼ったことで残ってしまったゴム糊の糊痕を、どの

ように除去するかを検証しましたのでご紹介いたします。

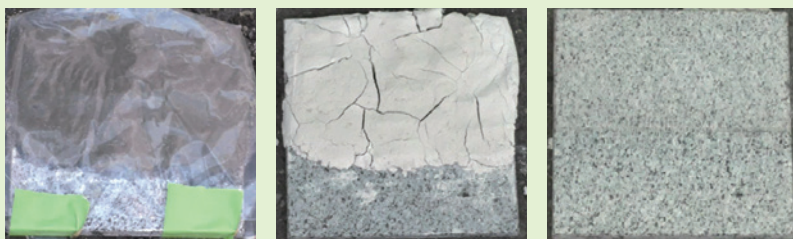
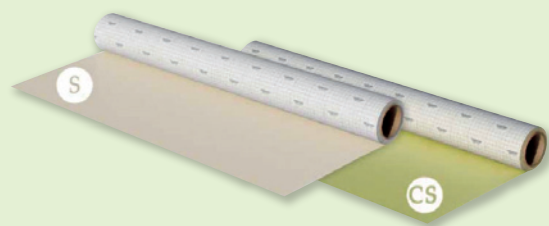
数日間、ゴム糊をあえて貼りっぱなしにしたゴムシートを剥がしてみると、糊自体が石に残る状態が発生します。この糊は熱湯をかけタワシなどで擦ることで除去が可能です。しかし糊痕がシミとなって残ります。

今回の除去には機械油の除去に対応する**オイルキラー**を使用します。オイルキラーは、石材に付着した機械油の除去剤として長年にわたり石材業界で使用されている商品です。主剤である液体と付属の粉体及び固体を混ぜ合わせ粘土状にすることで、付着浸透した染み成分を吸着除去する湿布工法として使用できます。

使用方法は簡単です。ゴム糊痕の患部に、オイルキラーの主剤と粉体及び固体を混ぜ耳たぶ位の硬さの粘土状にしたものを塗布し、丸一日そのままの状態で養生します。この際のポイントは、**粘土が乾かないようにラップをして覆う事**です。

一日後の状態をみると、綺麗に染み痕が残らず除去出来ました。石材のツヤなども落とすことなく糊痕だけ除去出来ました。

石材の種類やシミの状況に応じては繰り返し同じ作業が必要となる場合もありますので、状態を見ながら対応する様にしてください。



オイルキラー

トレンドnavi

「石用クランプ」

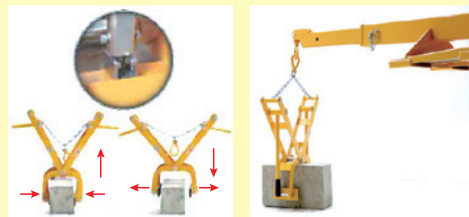
今回ご紹介するのはAARDWOLF社の**STONE KERB CLAMP ASKC200**です。この石用クランプは現場や作業場内での石や縁石、またはブロックなどの運搬に適したクランプです。

手動(2人)にての作業だけでなく、クレーンを使用しての吊り上げにも対応することができます。

最大吊荷重は200kgながら、吊幅は0mm～260mmまで対応しておりますので薄物の運搬時にも適しています。



石用クランプ ASKC200



OHソフトハンマー部品交換

VIDEO information

石材業界で使用されているショックレスハンマーですが、長期間ご使用の方の中には「ヘッド部」や「柄」が交換可能であることをご存じない場合もあるようです。そこで今回は、OH製のソフトハンマーを例に、部品交換の具体的な手順をご紹介します。



OH製 ソフトハンマー

1 ヘッド部の交換方法

①古いヘッド部を取り外す

本体から古いヘッド部を外します。この際、万力などで本体を固定すると作業がスムーズです。

②新品のヘッド部を取り付ける

新しいヘッド部をはめ込みます。樹脂製のヘッド部は硬いため、無理に押し込むと破損する恐れがありますので注意してください。



ワンポイントアドバイス

樹脂製のヘッド部は熱湯で煮沸すると柔らかくなり、はめ込みやすくなります。ただし、作業中はヘッド部が熱くなるため、火傷には十分ご注意ください。

2 柄の交換方法

①古い柄を取り外す 本体から古い柄を外します。

②新品の柄を取り付け 新しい柄を本体に差し込み、持ち手側を叩いて押し込むとスムーズです。

③余分な部分を処理し、固定する

柄の頭部からはみ出した余分な部分は、のこぎりなどで切り落とします。その後、付属のクサビでしっかり固定してください。

これらのメンテナンスを行うことで、ショックレスハンマーをより長く快適にお使いいただけます。交換可能なことをぜひご活用いただき、道具の性能を最大限に引き出してください。

交換する際には「製品メーカー」「品番」を確認し、規格対応した部品で交換してください。

詳細はこちらの動画よりご覧ください。



2液製接着剤のオススメ攪拌手順

石材の接着に欠かせない2液性エポキシ樹脂系接着剤。その中でも「フジラックボンドEK1000」は、屋外での使用にも対応可能な接着剤として、多くの現場で活用されています。

2液性接着剤を使用する際に最も注意すべき点は、主剤と硬化剤を均一に混ぜ合わせることです。不十分な攪拌は、接着力や仕上がりに影響を及ぼす原因となるため、斑(まだら)状態にならないよう、短時間で効率よく混ぜ合わせることが求められます。

効率的に攪拌するためには、単に渦巻き状に混ぜるだけでなく、縦方向や横方向に動かす攪拌を交えることが重要です。この方法により、材料全体を均一に混ぜ合わせることが可能になります。

適切な攪拌は接着剤の性能を最大限に引き出すポイントですので、ぜひお試しください。



フジラックボンドEK1000



詳細はこちらの動画よりご覧ください。

StoneExpo2025に出展します。

来年1月28日からラスベガスで開催されるStoneExpo2025に今回も出展します。北米で一番の内外装材・床材に関連する製品・サービスが一堂に会する展示会の中の石材部門です。今回はキッチンカウンター用の新商品を中心に展示します。ブースNO.4275でお待ちしております。



藤栄株式会社

大阪本社 〒578-0944 大阪府東大阪市若江西新町4-5-25
東部営業所 〒327-0817 栃木県佐野市伊勢山町14-10

ウェブサイト
<https://touei.ne.jp>



フェイスブック
<https://www.facebook.com/touei.kenzai/>



商品についてのお問い合わせ・ご注文等は、お近くの石材工具販売店様までお問い合わせください。

TOUEI ドットニュースは、メールでいち早く配信しております。配信をご希望の場合は、web@touei.ne.jp へ、メールの本文欄に会社名・お名前をご入力の上、送信ください。(右側のQRコードで、上記のメールが開きます)

